

## 「平成30年度さいたま市立学校給食センター運営委員会」会議録

- 1 開催日時 平成31年1月29日（火） 14:00～14:55
- 2 開催場所 さいたま市役所本庁舎3階 教育委員会室
- 3 出席委員 前山 克博、岩間 義彦、近藤 正直、柏 哲夫、近藤 彩子、  
柏 友香、矢田 明正、平沼 智  
以上 8名
- 4 欠席委員 西田 道弘、武井 悟、桑島 明美、星野 真奈美、佐藤 順子、  
山本 知子  
以上 6名
- 5 事務職員 山本 高弘、大川 和彦、倉地 勲  
以上 3名
- 6 議 事
  - (1) 開会
  - (2) 委嘱（任命）状交付（新任委員）
  - (3) 学校教育部長挨拶
  - (4) 自己紹介
  - (5) 報告事項
    - ア 学校給食センターの運営状況について
    - イ 今後の学校給食センターについて
  - (6) 審議事項
    - ア 学校給食センター学校給食用物資納入業者選定の承認について
  - (7) 閉会

公開

非公開

別 紙

質 疑 応 答

議 長 資料にある、栄養士2人というのは2校の栄養士さんだと思うのですが、学校の職員ですよね。その次の調理担当（委託）11人、受入担当（委託）4人という方々が、栄養士さんの作った献立や仕入れに従って調理をしてくれるわけですよね。その委託というのはどういう意味ですか。

事 務 局 調理員が市の職員ではなく、調理を業者をお願いしております。

議 長 学校も調理を委託しているのですか。

事 務 局 さいたま市では、調理業務の民間委託を進めております。中学校ではすべての学校が民間委託になっております。小学校は約4割、37校が直営校となっておりますが、6割は民間委託になっております。

議 長 つまり、以前は給食室に市の職員がいて食器の洗浄も含めて調理を担っていたが、民間の活力を導入して、調理師を抱えている大きな会社に委託をしている。委託業者が自由に調理するのではなく、仕様書を作成し、この野菜の中心部は85度以上にするとか、カットサイズはこのくらいとか、栄養士が厳密に調理方法を指示して調理する、ということですね。

事 務 局 そのとおりです。

議 長 学校給食センターで調理している2校はどのようなのですか。

事 務 局 与野本町小学校はセンターで調理する前は直営でした。仲町小学校は以前から民間委託になっております。

議 長 調理は委託であっても、栄養士は市の職員ですよね。

事 務 局 そのとおりです。

---

議 長 今調理をしている2校は、学校給食センターの近くにあるが、岩槻区の学校にも提供できるのですか。

事 務 局 学校給食センターの近くに首都高速がありますので、岩槻区の学校に提供する場合は配送に高速道路を使用するという想定をしています。

議 長 市内どこの学校でも提供できるということですね。

事 務 局 学校給食センターは中央区にあり、市のほぼ中央にあるのでどの学校への配送も可能と考えております。

---

議 長 仲町小学校と与野本町小学校は今改修していますが、給食室は広くなるのですか。

事 務 局 両方の学校とも広くなると聞いております。

議 長 設備も最新のものになるのですか。

事 務 局 設備も最新のものになると聞いております。  
新設校については、最新の設備を入れるようにしていますが、古い学校もありますので設備の差が多少出るというのが正直なところです。

委 員 多少ではないような気がします。大規模校など人口が増えて子どもの数も増えてきて、給食室に調理済みのものを置く場所が足りなくて廊下に出すなどの対応をとる学校が出てきてます。

議 長 これまで作ってきた食数を遥かに超えてしまう。作ることはできるが作ったものを置く場所がない。給食室を大きくする改築をしないとイケないということでしょうね。

委 員 施設、設備の検査項目がありますが、それに見合わない施設が出てきてますね。

議 長 学校薬剤師さんには、子どもの安全のため教室を含め給食室の衛生確認をお願いしておりますが、民間の調理場よりかなり厳しく確認していただいています。

委 員 チェックはかなり厳しいです。

議 長 学校給食センターは平成32年度以降に改修予定ということですが、古くなった学校の給食室も課題として考えていかないといけませんね。

---

議 長 アレルギー対応に関して、現在休止している仲町小学校の対応はどうなっているのですか。

事 務 局 平成31年の7月まで仲町小学校に引き続き給食提供しますが、新学期になった段階で学校と調整して除去食の対応ができるよう考えております。

議 長 食べ物のアレルギーの対応について、先生方のところに伺うケースはありますか。

委 員 学校関係からはありませんが、ボーダーラインの子どもたち、卵そのものは食べられないが二次製品なら食べられるという時に、学校の給食をどうするかとなると、そこまでの対応はできないので、だめか食べるかの二者選択になってしまう。ここまでなら食べられるがどうしても除去にせざるを得ない。もう少し細かく対応できればと思いますが、作る側からすればそれは難しいと思っています。

昨日来院したナッツのアレルギーの方は、半分くらいやパウダーなら食べられるが、一個食べると発疹が出てしまう。食べる量によって変化する場合や調理形態で変化する場合がありますので、学校の対応は難しいのかなと思っています。

議 長 学校としては、安全を考えナッツ類は全部だめという考え方になってしまう。実際にはその子は少量なら大丈夫ということですよ。学校に少量の確認というのも難しいので、家庭の二食で考えていただいて学校ではご遠慮いただくという形を取らざるを得ない。

今年になって、初発というのですか、それまで一度も食べ物に対してアレルギーはなかったけれど、中学生になって給食を食べて少しアレルギーの症状を起こして病院で調べてみたら、しばらく食べない方がいいよと言われたということがあった。体質が変わるのか今まで大丈夫だったものが、ある時アレルギー反応が起きるといえることがあるのですか。

委員            そういうことはあると思います。特に最近フルーツだと他のアレルギーと合体することがありますので花粉症になる率が上がってくるようなことがあります。

議長            最近エピペンという注射の処方される生徒が多くなっていると聞いていますがどうですか。

事務局          手元に正確な数字はありませんが、全市の小中学校で400人近くいると思います。給食のアレルギー対応が必要な子どもたちは2,500人から2,600人おまして、その中でエピペンを所持しているお子さんが400人ほどおります。

議長            市内の小中学校が160校ですから、一校に2～3人いることになりましたね。またその6倍くらいの方、一校12～3人の方がアレルギーの個別対応が必要ということになる。

                  今後もアレルギーは大きな事故になりかねないので、慎重な対応を学校給食センターも含めてお願いしたいと思います。

事務局          はい、わかりました。